

の手まねになる。即ち、「終り」の手前を表わしたことになるから、「まだ」である。

町(街) 家—家—家—家—と左の方から右の方へ表わして行く。家の多くたちならんでいる様。

間違ひ (1) 掌を前に向け指頭を上にした人差指と中指の手を、一方の眼に十字につけて、その掌をくると内側に返へす。(2) 掌を内側にした両手の集め合わせた五指の指頭を左右夫々の眼もとにしてから右の手をそのまま左の眼もとに、左の手を右の眼もとに位置を変える。左右を取り違えて見た間違ひの意。

待つ 五指の指頭を左にさし掌を下に向けた右手の甲を顎の下につけ、少し



心持上へ顎を押し上げるようにする。首を長くして待つこと。

松 掌の下に向けた手の人差指と中指の二指の指頭で頬を突き刺すようにつける。二本の針葉を表わしたもの。

末期 死—終り。

真先き 右手掌を下に向け指頭を左にさした人差指を左胸上部につけ(番号の一番を表わす)次にその人差指を前方にさしたまま、まっすぐに進ませる。

真直ぐ (1) 掌を右側にし五指の指頭を前方にさした左手の上に、掌を左側にし五指の指頭を前方にさした右手をのせ(左手の親指の上に右手の小指が重さなる)左手を軌道として、その上を右手がまっすぐに進んで行く。(2) 掌を左側にし五指の指頭を前方にさした右手をまっすぐに前方にさし出して行く。

全く 「凡て」と同げ手まね。

松茸 掌を内側に上にさした五指の指頭を集め合わせた左手の上に右手掌を傘のようにして被ぶせる。松茸の形をつくる。

まで 「終り」と同じ手まね。  
的 「揭示」と同じ手まね。

惑う 心——迷う。

免る 逃がれる——やれやれ。

真似 五指の指頭を上にさし掌を前向けにした右手を、前方から五指の指頭を集め合わせながら額の方に引き寄せて、最後に額の上につける。他人のする事を頭に入れて真似すること。

学ぶ 習う——勉強。

招く 「呼ぶ」即ち、手招きする身振。

豆 親指と人差指で輪をつくって、他の三指の指頭を前方にさした両手の掌を向い合わせ、交互に両手を上下させる。

迷う 五指の指頭を右にさし、掌を前向け

にした右手。五指の指頭を左にさして掌を前向にした左手、夫々左右の腹脇のところから交互に左右に出して往復させる。右にしようか、左にしようか迷う姿。

稀れ 「少し」と同じ手まね。

万一 (1)「仮りに」「若しも」と同じ手まね。(2)数の「万」を表わし、次にその下に「一」の数を表わす。

満足 「あきらめる」と同じ要領の手まね。即ち、五指の指頭を上にさし掌を右側にした右手を左胸上につけ、そのまま斜め下にすり降して行く。

慢心 心——自慢。

万年ペン 右手でペン軸を持った指の姿態で、上下にふって(イントを出す)文字を書く真似。

満腹 五指の指頭を左にさし掌を内側にした右手。五指の指頭を右にさし掌を内側にし